

## 障がいのある学生の受講を想定した遠隔授業の対応について【Vol.2】

2020年度前期の遠隔授業にて学生から寄せられた相談内容をもとに、改定版を作成いたしました。

遠隔授業では、身体障がいや精神疾患などにより通学や移動で負担のかかる学生にはメリットがある反面、視覚・聴覚等の感覚障がい、あるいは発達特性のある学生にとってはデメリットが生じ、特に配慮が必要になる場合もあります。

つきましては以下、遠隔授業において、障がい等により生じやすい課題と対処法の案をお知らせ致します。授業を担当される先生方、配慮を必要とする学生、双方の負担を少しでも軽減できればと存じます。

障がい学生が受講する授業では、科目担当の先生方にお届けする配慮依頼文書の内容に基づき、下記の対応も念頭に置いて、合理的配慮を検討・提供していただけますと幸いです。

また、下記の対応は授業のユニバーサルデザイン化（障がいの有無にかかわらずアクセスしやすい環境設計）にも役立ちますので、障がい学生が受講しない授業においてもお勧めいたします。

---

【内容】★は後期に追加した新項目、もしくは追記事項を含む項目です

- |  |       |
|--|-------|
| ★1. 聞くことに困難のある学生（聴覚障がい・発達障がい等）   | p.2-3 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業で予想される困難</li> <li>・科目担当の先生にお願いしたい内容</li> </ul> |       |
| 2. 見ることに困難のある学生（視覚障がい・発達障がい等）  | p.4   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業で予想される困難</li> <li>・科目担当の先生にお願いしたい内容</li> </ul> |       |
| ★3. 筆記や操作、会話に困難のある学生（運動障がい・発達障がい等）   | p.5   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業で予想される困難</li> <li>・科目担当の先生にお願いしたい内容</li> </ul> |       |
| ★4. 発達特性により様々な困難のある学生（発達障がい等）  | p.6-7 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業で予想される困難</li> <li>・科目担当の先生にお願いしたい内容</li> </ul> |       |
| ★5. 試験や評価について（障がい種別にかかわらず）   | p.8   |
| ★6. 課題について   | p.9   |
| ★7. ご参照ください（学生サポート室の対応について／字幕作成について）   | p.10  |

## ★1. 聞くことに困難のある学生（聴覚障がい・発達障がい等）

### 遠隔授業で予想される困難

一般的に聞くことに困難がある学生の場合、以下のような困難が予想されます。

- ・聴覚障がいのある学生が、遠隔で行われる授業に参加する場合、動画や音声コンテンツにアクセスできないということが一番の課題となります。  
※対面授業ではノートテイクを派遣したり、音声認識アプリを使用して情報保障をしていますが、学生それぞれが自宅にいる状態では、対面と同じようには支援が行えません。
- ・日常的には音声を用いてコミュニケーションをとっている障がい学生であっても、遠隔授業になると、音声が聞き取りづらかったり、話者の口形が見づらいなどの難しさが生じます。
- ・パワーポイント等の視覚資料と先生の音声により進められるような遠隔授業の場合、視覚資料に掲載されていない音声情報を取得することが難しくなります。
- ・遠隔授業では通信環境によって音割れ等の音質不良が発生する確率が高まるため、正確に聞き取ることが難しい場合もあります。
- ・聴力だけの問題ではなく、音声だけで理解することが困難な学生にとっても同様の困難が生じます。視覚的な資料や文字情報があることで理解の助けになります。

### 科目担当の先生にお願いしたい対応

以下のような対応をしていただければ、聞くことに困難のある学生の助けになります。

※下記以外にもメール等で対象学生からの質問などに応じて頂き、本人の理解をご確認ください。

#### ◆授業をビデオや音声ファイルに記録・配信する場合（オンデマンド配信）

- ① 講義資料はなるべく文字情報を多めにする。
- ② 動画教材には字幕を挿入する。  
字幕の作成については p.10 の（参考）「字幕の作成について」をご確認ください。
- ③ 動画への字幕挿入が難しい場合や音声ファイルのみをアップする場合は、音声情報を文字（読み）原稿として対象学生に提供する。

※音声情報を文字原稿として提供するには以下のような方法があります。

- ・パワーポイントを使用する場合は、ノート（メモ）機能に読み原稿を記載する。
- ・音声ファイルのみを使用する場合は、テキストファイルや word ファイルで原稿を作成する。

## ◆同時双方向で授業をする場合（ライブ配信）

- ① 授業で使用する資料をできるだけ事前に障がい学生に送付する。  
専門用語が含まれる場合、正確な理解のために事前準備が助けとなります。完成版でなくても可能な限り詳細な資料をご提供ください。
- ② ノートテイク参加の許可  
障がい学生から希望があり、コーディネート可能な場合は、遠隔情報支援を行うためにサポートスタッフ学生が遠隔で参加する可能性があります。ご了解ください。
- ③ 可能な環境であれば、話者となる先生や学生は口元が見やすいようにマスクはつけない。
- ④ ゆっくり・はっきりと発音する  
遠隔授業では、以下の状況を念頭においてください。
  - ・音声の伝達にタイムラグが生じることがある。
  - ・通信環境により聞き取りにくくなっていることがある。
  - ・自宅で音声認識アプリを使用して先生の音声を文字通訳して理解している学生がいる。早口・小さな声・不明瞭な発音は聞き取りにくいというえ、音声認識アプリでも認識できません。通常の授業よりもゆっくり・はっきりとお話してください。
- ⑤ 複数の人が参加するディスカッションでは、話者は話す前に名乗る、同時に話さない。
- ⑥ 講義中または終了直後にその日の内容を問うような課題には提出期限の延長などを認める。  
音声認識アプリを使用して受講していても、タイムラグのある文字情報で追いかけてながら理解しているという状況をご理解ください。  
今終えたばかりの内容を今すぐレポートする、コメントシートに書くなどの課題を求める場合は、本人が文字情報で内容を理解する時間が必要になります。提出期限の延長などをご確認ください。

### 追記

#### ★⑦PC テイク参加の許可

科目の特徴や障がい学生のニーズにより検討したうえで、学外の専門業者に依頼しPCテイク（＝通訳者）を配置する場合があります。オンデマンド・ライブ配信いずれの形式でも、PCテイクが授業を視聴しながら、リアルタイムで文字通訳をいたします。

授業時間中に先生方をお願いすることは特にございませんが、できるだけ事前に資料や動画をお示し頂くことで、通訳の精度が上がります。PCテイクを配置する際は、必ず個別でご連絡いたしますので、できる限りご協力ください。

## 2. 見ることに困難のある学生（視覚障がい・発達障がい等）

現在、本学では視力低下などで見ること自体が困難な学生の配慮申請はありません。

ただし、「見て理解する力」よりも「聞いて理解する力」の方が強く、そのギャップが大きいいため、見るだけでは理解が困難という学生はおります。

### 遠隔授業で予想される困難

一般的に、見て理解することに困難がある学生の場合、以下のような困難が予想されます。

- ・ 文字情報から理解すること自体に困難があるため、一般的には「読めば分かる」ことが、「読んでいるのに分からない」という状況になります。
- ・ パワーポイント等を使用される授業では、視覚資料から情報を得ることが困難になります。
- ・ 聞くことに集中している間に、パワーポイントや動画が次々と進んでしまい、内容に追いつけなくなる場合があります。
- ・ 資料や教材などを「読んで理解しておく」ことが難しい場合があります。
- ・ 大量の文字情報を読み取りながら、どこが重要なのかを理解することに困難さを生じます。

### 科目担当の先生にお願いしたい対応

以下のような対応をしていただければと、見て理解することに困難のある学生の助けになります。

※下記以外にもメール等で対象学生からの質問などに応じて頂き、本人の理解をご確認ください。

- ① パワーポイント等の視覚資料を使う際、内容を読み上げるなど音声による説明を加える。
- ② 視覚資料では、できるだけハイライトや文字色を変えるなどして重要な部分を明示する。
- ③ 授業で使用する資料をできるだけ事前に障がい学生に送付する。
- ④ 「読んで理解する」課題の場合は、注目すべきことなどを明確に指示する。

追記があります！

### ★3. 筆記や操作、会話に困難のある学生（運動障がい・発達障がい等）

上肢障がい、何らかの疾病、または、見る／聞く／理解する／書くを同時にこなせないという理由により、ノートを取る（筆記）がスムーズではない学生がおります。

また、身体的・精神的な理由から発話が困難な学生もおります。

#### 遠隔授業で予想される困難

一般的に以下のような困難が予想されます。

- ・（筆記について）音声を聞きながら、また、パワーポイントなどを見ながらノートに書きとるのに時間がかかります。メモやノートを書いているうちにパワーポイントや動画が次々と進んでしまい、内容に追いつけなくなることがあります。
- ・（発話について）急な指名などに対して発話をするのがスムーズではない場合があります。

#### 科目担当の先生にお願いしたい対応

以下のような対応をしていただければと助けになります。

※下記以外にもメール等で対象学生からの質問などに応じて頂き、本人の理解をご確認ください。

##### ◆授業をビデオや音声ファイルに記録・配信する場合（オンデマンド配信）

- ① 動画を使用する場合、できるだけ十分な公開期限を設定する。  
筆記や操作に時間がかかる可能性を考慮した期限設定をお願いします。
- ② 受講中あるいは受講後の筆記試験や課題提出について事前に本人と相談する。  
できる限り、障がい学生と事前に相談して適切な提出方法や時間・期限についてご確認ください。

##### ◆同時双方向で授業をする場合（ライブ配信）

- ① 授業で使用する資料をできるだけ事前に障がい学生に送付する。  
初見で書き写すよりも事前準備があると助けとなります。完成版でなくても可能な限り資料をご提供ください。
- ② 聞き取りやすいようにゆっくり・はっきり話す。  
筆記に困難がある場合、書くことに集中しているため聞き取りにくいことがあります。  
いつもよりもゆっくり・はっきりお話しください。
- ③ 授業中、学生に発言や反応を求める場合には適切な方法を事前に確認する。  
発話が困難な学生の場合には、発話での反応でなくチャット機能を活用したコミュニケーションの方が学習にアクセスしやすい場合があります。指名方法についてご検討ください。

追記

##### ★④ 授業の録音・撮影を許可する。

ライブ配信では、情報を書き留められない内に授業が進んでしまいます。録音や撮影を認めて頂けることで、繰り返し理解しながら受講することが可能になります。

追記

##### ★⑤ ビデオオフを許可する。

自分の顔が見られることに非常に不安が高まり話せなくなる場合があります。ビデオオフでの授業参加をお認めください。

## ★4. 発達特性により様々な困難のある学生（発達障がい等）

### 遠隔授業で予想される困難

発達障がい学生は特性により個々の症状も様々です。以下はあくまでも一般的に予想される困難です。

- ・コミュニケーションの困難さから、他の学生に積極的に連絡したり情報を得ることが難しくなります。
- ・聞き洩らしや聞き違いの多さ、言葉の理解の遅さから、先生の指示を理解することが苦手です。普段は周りの学生を見て何となく動いている学生の場合、遠隔授業では自分以外の周りの動きを見ることができません。そのため自分の行動が正しいのか不安になったり混乱する可能性があります。
- ・普通の授業では本人の努力以外に、先生や周りの学生たちの心遣いにより大きく助けられている場合があります。遠隔授業では困った様子で戸惑っていても、誰からも声をかけてもらえる状況でないため、困りごとや孤立が強まる可能性があります。
- ・急な予定変更や、臨機応変な対応への困難さがあります。科目ごとに配信方法が異なったり、週ごとに方法が変更になると、それだけでついていけなくなる可能性もあります。

#### 追記

- ★・見通しを立てて計画的に取り組む等、自己管理が困難な特性もあります。その場合、遠隔授業の環境において、自分で集中して受講を続け、計画を立てて課題に取り組む、期限までに提出できるよう自身自身を管理する、ということは何週間も継続することが大変難しくなります。とりわけ一人暮らしの学生や、実家にいても家族の協力を得られない場合はさらに難しさが増します。

#### 追記

- ★・こだわりの強さから、遠隔授業に取り組みにくくなる場合があります。課題提示のみの形式では学んでいないように感じてしまったり、教科書とノートが不要で、PCのみで完結する学びのスタイルに適応しにくい等、こだわるポイントは様々ですが、多くの学生にはあまり問題にならないような点が必要で、授業参加自体が困難になることもあります。

#### 追記

- ★・発達障がいや精神障がいを抱える学生は、コミュニケーション上の課題／不器用さ／学業不振／身体症状／抑うつや不安など、多岐にわたる困難を抱えがちです。

## 科目担当の先生にお願いしたい対応

以下のような対応をしていただければと助けになります。

※下記以外にもメール等で対象学生からの質問などに応じて頂き、本人の理解をご確認ください。

- ① 指示や予定はできるだけはっきり・わかりやすくする。  
授業中の指示や、課題の指示については、できるだけ明確にお願いします。予定変更についても困難な学生が多いため、事前に明確に知らせて頂きますと助けになります。またその際、口頭での指示のみでなく、文字情報でも明示されると理解しやすくなります。
- ② 動画を使用する場合、できるだけ十分な公開期限を設定する。  
筆記や内容理解に時間がかかる可能性を考慮した期限設定をお願いします。
- ③ 受講中あるいは受講後の筆記試験や課題提出について事前に本人と相談する。  
できる限り、障がい学生と事前に相談して適切な提出方法や時間・期限についてご確認ください。
- ④ 先生からの説明部分と学生の書き取る時間をできるだけ明確に分ける。  
聞きながら書くことに困難がある場合、説明や動画が続くと、ノートをとるタイミングが分からず理解が困難になります。聞く時間と書く時間をできるだけ明確にしてください。
- ⑤ 連絡方法を明示する。  
学生が授業に参加できない状況に陥った際に知らせることができるよう、学生から先生への連絡方法を明示してください。

追記があります！

## ★5. 試験や評価について（障がい種別にかかわらず）

合理的配慮は、本学のすべての学生が、障がいの有無にかかわらず等しい条件で学べるよう、障壁となる部分を変更・調整するものです。学べる権利を保障しますが、成績や単位を保障しているものではありません。

また、成績評価の方法を工夫して頂くことはありますが、評価基準を変更して頂くことはありません。

### 試験時の配慮について

- ・何らかの試験を課される場合、授業受講時とは異なる合理的配慮を要する場合があります。
- ・個別の配慮依頼文書の内容に沿って、適切な評価方法をご検討ください（例：試験時間延長、解答方法の変更など）。

### リアクションペーパーやテスト等での成績評価について

- ・遠隔授業で出されたレポート提出やテスト等へのアクセスができない状況に遭遇する可能性があるため、学生が先生へ連絡する方法を明示してください。

追記

- ★・障がい学生は、授業にアクセスしにくかったり、症状が増悪した際に心身のコントロールがきかなくなったりするため、時間がかかることもあります。そのような場合には、代替措置や時間延長等の配慮が必要になることをお知りおきください。
- ・リアクションペーパー、コメントシートなどの提出物においても、期限の設定、代替措置や評価方法の変更が必要になる場合があります。必要に応じてご検討ください。

## ★6. 課題について

遠隔授業では出欠確認のための「課題」設定が必要となりますが、その課題に関して困難を抱える学生が増えています。以下のような点にご留意頂きますと学生たちの課題取り組みの助けになります。

- ・先生が課される課題は週に一つであっても、学生は何科目も履修しており、それぞれの科目から課題を受け取ります。一人の学生に課される課題の量は相当な数になっている場合があります。
- ・10個程度の課題をスムーズに毎週こなしていれば問題はないように思われますが、ちょっとしたことでつまずいたり質問できないでいる内に翌週に持ち越してしまい、雪だるま式に未提出課題が増えてしまうという例が多々あります。
- ・特に友人とのつながりが無いタイプの学生や一年生などは、どこまで回答できたら課題のゴールなのか不明で、一人で延々と夜中まで課題に取り組んでいるということもあります。
- ・課題について、適切な量をご検討頂き、回答にかかる時間の目安もご提示頂きますと取り組む際の助けになります。
- ・出欠確認のための課題と、評価対象としての課題を明確にして頂きますと取り組む際の助けになります。  
→前期、課題を提出しても内容理解が乏しいと判断され、「課題の提出が認められない=欠席」となり、大変落ち込んだうえ次の課題以降に取り組めない学生もおります。  
※理解に時間がかかる特性の学生にとっては、人よりも時間をかけて何とか課題を提出したものの0点で欠席という結果になってしまいますとやる気を失い、受験資格にも影響してしまいます。  
課題の提出で「出席」になることと、内容理解・到達度に応じて「評価」されることは区別して頂き、どちらのための課題であるかを明確にお知らせください。
- ・課題については内容や特徴も様々ですので、期限延長のみが適切な配慮とは考えておりません。学生からのニーズに応じて、期限延長をお願いした場合でも、授業や課題の本質に照らし、延長を認められない場合や、延長以外での対応策が考えられる場合には、ぜひご教示ください。

## ★7. ご参照ください（学生サポート室での障がい学生への対応／字幕作成について）

### 【学生サポート室での障がい学生への対応】

#### 追記

- ★・障がいのある学生については、2020年度前期に引き続き、個々に応じた授業での配慮事項を整理した配慮依頼文書を作成します（対面形式、遠隔形式など必要に応じて形式ごとの配慮内容を記載します）。
- ・配慮依頼文書は、学科での承認を頂いた後、学生サポート室より各科目担当の先生方にお送りします。原則としては「△△△@mukogawa-u.ac.jp」と「〇〇〇@mwu.jp」の両方のアドレスに同じ内容のメールをお送りします（どちらを優先的に使用されているか把握できないため。ただし、個別の事情により一方のみにお送りする場合があります）。
- ・障がい学生からの修学に関する相談については、後期も引き続き、電話やメールでの相談も可能としつつ、対面を中心に行っております。
- ・今学期も、学生からの意見を聞き取るとともに、先生方のお困りの点についてもサポートいたします。授業配慮についてお困りのことや、学生への対応で不明な点がございましたら、学生サポート室にご連絡ください。

【問い合わせ先】学生部 学生サポート室

Tel:0798-45-3794（内線 3261・3263）／ Email:gskyoren@mukogawa-u.ac.jp

担当：田坂 祥子・前田 知津

### （参考）「字幕の作成について」

字幕の作成には、さまざまな方法がありますが、ここでは比較的容易に作成ができる YouTube 字幕を用いた方法を紹介します。

#### 動画コンテンツへの字幕の付与（YouTube の活用：mwu.jp のアカウントで YouTube にログイン）

- ・YouTube を活用して字幕を生成する方法です。YouTube の音声認識機能を活用して、字幕を自動生成するとともに、作成された字幕を修正して、正しい内容で提示することができます。
- ・作成した字幕は、YouTube にアップロードした動画に同期させて表示することができるほか、字幕データを書き出しお手持ちの動画編集ソフトを使いローカルに置かれたファイルに字幕を重ねることもできます。
- ・字幕を作成する際にも、YouTube の機能を用いて自動生成する他、ローカルで作成した文字おこしデータをアップロードして、動画ファイルと同期させたり、ゼロから自身で入力することも可能です。
- ・実際に作成にする際には、ブラウザを用いて YouTube を開き、アカウントメニューの中の YouTubeStudio を開いて動画をアップロードします（アップロードした動画は、公開・非公開・限定公開等、公開レベルを設定することができます）。
- ・字幕メニューを用いて、自動生成された字幕を見ながら間違いを修正し、タイミングの編集で字幕の表示時間や表示タイミングを修正します。

「全国高等教育障害学生支援協議会」提供資料より

★こちらもご参考までにご紹介いたします。

【YouTube 動画に字幕を入れる方法（8分）】<https://www.youtube.com/watch?v=aLe7UUXba8I>